

発行日：平成28年10月1日（平成8年創刊）

発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 大長 義信 URL: <http://www.suzuran.or.jp>

所在地：〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-6-4 TEL: 042-745-8080

編集：広報委員会

## 地域に愛されるイベントを目指して

すずらんの会イベント委員会では、定期イベントの企画・運営を行っています。イベント開催の主旨は地域交流です。すずらんの会の様々な活動を幅広い方々に知っていただくことはもちろんですが、地域で活躍する様々な人や団体・活動を広める機会を設けることで、交流・連携を図り、地域の大きな力を育む役割を担うことを目指しています。

7/9（土）には相模原市立市民健康文化センターでサロンコンサート2016を開催しました。当日はあいにくの天候でしたが200名を超える来場者がありました。毎年同じ時期に開催している為、地域の方々から「今日はサロンコンサートなんだね」と声をかけられる事もあり、イベントの認知度が上がっている事を感じました。また今回は、相模原市とのタイアップで、相模原市マスコットキャラクターさがみんが駆けつけ、会場を大いに盛り上げてくれました。



バルーンアーティストの竹田望穂さんによる、大人も子どもも楽しめるバルーンショーや、地域貢献活動に取り組んでいる相模女子大学中学部・高等部合唱部の皆さんの若く澄んだ歌声、さらにバイオリン、コントラバスによるポップインストユニット style-3!のみなさんには、圧巻の音楽パフォーマンスをご披露いただきました。華やかな3組のステージに会場は大いに沸き、来場者は思い思いに楽しんでいただけた様子でした。そして今年は、会場装飾にも地域の力の結びつきが実現しました。竹田望穂さんによるバルーンアートと、生活介護事業所フィルインと相互にボランティア活動を行っている、まるさきランドの方々で作成したタペストリーをお借りしました。海の中をモチーフにしたバルーンと素敵な手作りのタペストリーによって、会場に彩りを添えていただけました。

### イベントの機会を通じて、働く姿を知ってほしい

コンサート当日は、すずらんの家の焼き菓子やスワンペーカーがさがみはらのパンの販売も行われました。販売を担当した施設利用者は「緊張はしなかった（販売は）いつもやっているから」と、笑顔で当日の様子を振り返り、毎年販売担当として積極的に関わっているとのことでした。イベントでは自主製品の販売を楽しみにしているお客様もいれば、地域に施設がある事を初めて知るお客様もいます。障害のある方々が仕事として関わり、この地域が障害のある方々にとって生き生きと働ける場である事を知って頂く機会にもなっています。こういったきっかけを活用して、今後も地域の方と交流を深めていきたいと思えます。10/29（土）にはフェスタすずらん2016を開催します。今年も地域から多数の団体が出演していただきます。作品展も同時開催していますので、みなさんのご来場をお待ちしております。（編集：広報委員会）

## 上期を終わって

理事長 大長 義信

28年度も半ばを過ぎました。

世の中の状況が目まぐるしく変化している中で弊会も例外ではなく、様々な事を乗り越えながら何とかここまでこられたのは、皆様のお力添えの賜物と深く感謝しております。期初には元職員による公金横領事件が発覚し、施設会計等の現金が私的に着服されると云う被害に遭いました。管理体制上の不備な点もあり、洗い出しを行って法人全体で再発防止に取り組んでおります。

又、最近になって漸く社会福祉法人改革の本身が少しずつ判って来るようになりました。改革の最大の狙いは、法人統治つまり昨今よく言われるようになった法人のガバナンスの強化にあります。同時に法人経営の透明性を如何にして高めるか、そして将来の福祉の向上にどう取り組み、投資すべきかと云う所にも狙いがあります。それらは永い間法人の誠意ある運営に任されてきましたが、ほんの一握りの不心得な法人の所業が明るみに出るに及んで、改革に向け国も重い腰を上げるを得なくなつたと云うのが真相ではないでしょうか。

これから年度末に向け、改革を実行に移すための様々な準備に追われることとなります。

## 特集—わたしたちの仕事

今年度は、私たちが働く福祉の仕事について紹介していきます。『福祉』と聞くと『介護』というイメージを持つ方が非常に多いですが、すずらんの会で働く職員の仕事を通して、障害者福祉の支援についてお伝えしていきます。



絵：利用者の方が描いたワイビレッジのみなさんの似顔絵

## 生活を支える グループホーム世話人

グループホームとは、高齢者や障害者が少人数（5～10人程度）で共同生活を営む住居およびその形態のことです。生活における支援・補助を必要とする方々が、支援を受けながら地域社会になじみ、家庭と同じように安心して日常生活を送るための住まいです。

一般的に世話人の業務は、調理、配膳、片付け等の食事提供、ホームの清掃や、備品・消耗品の購入といった住環境管理、日々の健康状態の観察、必要に応じて服薬管理等を行う健康管理、金銭管理、仕事の悩みや生活の相談、日誌の記載など多岐に渡ります。日中活動を支援する事業所のように決まったプログラムに沿った支援の提供とは異なり、一人ひとりにあった日常生活の支援を行います。世話人業務を行っている及川職員の仕事を紹介します。

世話人の勤務（常勤職員の場合）  
8:00～9:00 ホーム家事  
9:00～11:50 事務処理  
17:00～21:00 利用者支援

## 利用者の気持ちを大切にしたい創意工夫ある支援

Q：ワイビレッジはどんな方が利用していますか？

A：男性7名定員のグループホームです。年齢は20代～60代の方まで様々ですが、仲良く暮らしています。利用されているみなさんは、一般企業へ勤めている方や、施設を利用されている方などです。



写真：ある日の夕食風景

Q：世話人として、どのような事を意識して利用者に関わっていますか？

A：3つの事を意識しています。

**1つ目：**やりたいと言う気持ちを大切にすることです。利用者主体のホームを目指し“ホーム利用者の会”を設け、ホームでのイベントや目標を利用者同士で話し合っています。7月に開催した親睦カラオケ大会では、利用者からの発案で、ホーム所属の職員を招待することとなり、告知ポスターを利用者が作成しました。楽しみを自分たちで計画し実行できるよう支援しています。

**2つ目：**利用者の強みを活かせるような環境作りに取り組むことです。掃除が得意な方、気遣いができる方、絵が得意な方、パソコンを使いこなせる方など、良さを引き出して自分もホームの一員だと感じていただけるような環境作りを常に意識しています。

**3つ目：**自分の出来る事は自分でこなす、メリハリのある生活を支えることです。そのため個別支援計画の目標に沿って毎日自己評価及び職員評価を行っています。評価が形骸化せず、楽しみながら行えるようキャラクターを活用した振り返りシートを作成して、自分の頑張りを実感する機会を設け、達成感を感じられるよう工夫しています。



写真：世話人手作りの貯金箱

Q：世話人という仕事の魅力はどこにありますか？

A：創意工夫によって利用者の悩み事を克服し、やる気を引き出すことが出来た時にとても喜びを感じます。

グループホームに入居したばかりの利用者から相談がありました。将来自立をした時にどうなるか心配になったようでした。様々な制度を活用できることを説明しましたが、ご本人の心配は解決されませんでした。よくお話を伺うと、その方のご両親からお小遣いをもらっていたため、日々使うお金はどうなるのか今から心配している事がわかりました。そこで、貯金をするという経験を積み、お金がないという心配が減るように500円玉貯金をする提案を行いました。

500円玉貯金をする＝お金が貯まる＝心配にならないと整理できたことで、心配事はなくなったと話してくれました。初めての貯金にも楽しみが持てるようにと手作りの貯金箱を用意したところ、とても喜んでいただけました。生活における色々な課題に、利用者と一緒に向き合うことで、その方の生活のステップアップを支えられる事に魅力を感じます。

（編集：広報委員会）

## ゼロ災害を目指そう

安全衛生委員会 委員長 辰口 大樹

安全衛生委員会では、年間を通じて、ゼロ災害の推進を目標に掲げて活動を行っております。活動は、①事業所・グループホームの安全自主点検 ②安全運転講習(年2回) ③法人総合防災訓練の実施 ④グループホーム夜間避難訓練 ⑤安全等に関する啓発ポスターの配布 ⑥事故・ヒヤリハットの分析、再発防止策の検討と実施指導 ⑦メンタルヘルス活動を行っております。

今回は、法人内自主点検と、ストレスチェック制度への取り組みについて紹介いたします。

### <法人内自主点検>

日々利用者支援を行いながら作業に取り組んでいると、安全に対する意識が疎かになりがちであり、いつの間にかその状態が当たり前になってしまいます。そうならないように、各事業所に委員が抜き打ちで訪問に回り、安全点検を実施します。例えば、安全通路や非常口の前に荷物が置かれていないか、棚の上に重たい物が置かれていないか、など、全37項目のチェックを行います。年々各事業所の安全意識が高まり、指摘事項も少なく、効果があがっています。今後も各事業所で不安全行動・不安全状態(※1)が撲滅できるよう活動を行ってまいります。



### <ストレスチェック制度への取り組み>

職員のメンタルヘルスに関わる取り組みについては、平成26年度より体制づくりを始め、研修委員会と連携して外部講師による各種研修を行ってきました。近年企業等において、仕事等によるストレスから精神的不調に陥る労働者が増えていることを踏まえて、国の制度として新たにストレスチェック制度が施行されました。労働者の仕事によるストレスの程度を把握し、早期対応をすることで精神的不調を未然に防止することを目的としたストレスチェックの実施が事業者に義務付けられました。(規模50人未満の事業場は努力義務) すずらんの会においては、労働者(職員)が50人以上の事業所はありませんが、毎年行っている職員の定期健康診断に併せて今年度より公益社団法人全国労働衛生団体連合会(以下、全衛連)のストレスチェックを導入することになりました。職員個人の結果は本人にのみ通知されますが、職員10名以上の事業所には職場評価のフィードバックが全衛連からあります。今後はその評価を参考に環境の改善に取り組み、働きやすい環境づくりの一翼を担っていきけるよう活動していきます。

(※1) 不安全行動とは…

「労働者本人または関係者の安全を阻害する可能性のある行動を意図的に行う行為」をいいます。例えば、「これくらいは大丈夫だろう」、「皆がやっているから」、「(作業を早く進めるためには)仕方がない」など慣れや過信から、「あるべき姿」を逸脱する安易な行動です。

不安全状態とは…

物や装置等の欠陥、物の置き方や置き場の欠陥、不適当な作業道具を使うといった作業方法の欠陥など、安全な状態ではないことを指します。

どちらもそのままにしておくと、労働災害に発展するケースが少なくありません。

### グループホームには どんな職員がいるの？

記事で、ご紹介した世話人のほか、次の職員が配置されています。

**世話人補助**(制度上は生活支援員、ホームすずらんではアシスタントと呼んでいます。) 調理・掃除洗濯支援など世話人業務の補助を行います。

**サービス管理責任者**

個別支援計画の作成・通院同行・関連機関との連携・入居・退居の契約等の手続き・見学者案内などを行います。

### グループホームでいっしょに働く方を募集しています。

利用者支援は、自分で考えて工夫しながらできるので、とても仕事にやりがいがあります。利用者の皆さんへの支援を通して、共に成長できる仕事です。ホームすずらんの仕事に興味をお持ちの方は是非ご応募ください。

お問合せ窓口：ホームすずらん 遠藤

☎ 042-711-9101

## 余暇支援ボランティアのみなさんとの交流会

余暇支援委員会 委員長 野中 義弘

【余暇支援活動を通して地域の人々と共に活動する中で、地域との交流を図る。また、施設サービスの一環として、利用者の生活の質の向上、社会参加の場を提供する。】という目的を持って余暇支援委員会は活動しています。

目的にある「地域との交流」のため、余暇支援事務局はボランティアセンターなどに協力を依頼し、地域の方々と接する機会になるよう運営しています。参加する利用者が楽しく活動できるためには何をしたらよいかをボランティアの方々と一緒に考えます。それを踏まえてそれぞれの活動に携わっていただいています。この余暇支援活動に大きな役割を担っているボランティアの方々と交流会を年に1回行っており、活動を通じて感じた課題や要望を聞き取っています。そして利用者が働くことと同様に、地域の人とかかわりながら余暇を過ごすという法人の考えを伝えていく場と捉えています。

今年も7/30(土)に交流会を行い、今回は新たな企画として全てのサークルの動画を準備しました。参加頂いた方々からは、「今まで聞いたことはあったが、今回は目で見る事ができて良かった」、「他の活動を参考にしようと思った」、「長く関わっているので、利用者の成長がわかって嬉しい」などの意見が多く聞かれました。

法人の力だけでは限界がありますが、ボランティアの方々の力をお借りする事で、利用者支援のさらなる充実が図れると考えております。今後も力強いサポートを頂きながら、余暇支援活動をともに進めていきます。(編集：広報委員会)



## 地域交流 自治会活動への参加

タートル・グリーンハウス施設長 池田宏子

生活介護事業所タートル、多機能型事業所グリーンハウスとグループホーム事業みらいがある地区は、溝上自治会に所属となります。地域のなかの事業所として、積極的に自治会活動に参加させていただいています。

自治会への参加は、地域の方に事業所を知っていただくことと、地域で生活しているホーム利用者がいることを知ってもらう、顔が見える関係作りが大きな目的です。溝上自治会は神奈川県相模原市南区麻溝台地区に位置し、300世帯を超える自治会です。活動も活発で、夏祭りや年3回の自主防災訓練、年数回行われる草むしり等があります。事業所として、自主防災訓練と草むしりに職員が参加したり、グリーンハウスから利用者とともに夏祭りへの出店もしております。こういった場での交流から、関係づくりができるよう、職員は揃いのジャンパーや帽子を着用して参加しています。少しずつですが、自治会のみなさんとも顔見知りになれ、お声掛けいただけることも増えたように感じます。

現在、自治会活動の参加は職員が主ですが、利用者が参加できるような取り組みを進めていくことで、とくに溝上地域の住人であるホーム利用者が、地域の一員として生活できるようになればと思います。何かあれば互いに声をかけ合える・・・そんな関係でありたいです。

## クリスマスライブを開催します。

12月3日(土) 14:00



相模原市立市民健康文化センター

## 配分金交付によるご報告とお礼

生活介護事業所タートルは、共同募金配分金の交付を賜り、送迎車を購入いたしました。利用者からは、乗り心地がとても良く快適だとの声をいただいています。

地域のみなさまのあたたかいご厚意に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



## 研修のご案内

企業の方を招いて、就労支援に関わる研修会を下記の通り実施します。

テーマ 「企業における障害者雇用の実際と企業が支援者・家族に求めること」とは

講演者 株式会社スリーポンド 保谷 全秀様

日時 10月21日(金) 18:00から

場所 ユニコムプラザさがみはらセミナールーム  
(ポーノ相模大野サウスモール3F)

参加費 無料

受付 ワークショップ・SUN横山(担当佐々木)

連絡先 042-707-1831

## 編集後記

利用者の方々には地域のみなさんとの交流を通して、社会に関わっていくことの大切さを知ってほしいと感じました。今後も、すすらの会の様々な活動や取り組みを発信し、みなさんにお伝えできればと思います。(五十嵐・大森)